

信濃川 水辺の楽校 つまりっ子ひろば

●ムシトリナデシコ



●カワラナデシコ



信濃川の植物 観察ガイド



●ミヤマシジミ



●アキグミ

案内図 (植物分布図)



●ヒメスズメ 七夕草 (8月)



●ムラサキクマ 蘭科 (5月)



●ツルマンネングサ ベンケイソウ科 (6月)



●ノボリ 桔梗科 (6月)



●ネムノキ マメ科 (7月-8月)



●イタチハギ マメ科 (6月-7月)



●メダカ マメ科 (8月-9月)



●クズ マメ科 (9月)



●クサヅ マメ科 (7月-8月)



●ノボリ フナソウ (8月-10月)



●ニホヒメ スズメ科 (4月-5月)



●アサツバ ウラボシ科 (8月-10月)



●アサツバ アザミ科 (7月-9月)



●オカラノオ サクラソウ科 (8月)



●カワラナデシコ アザミ科 (8月)



●カキドオシ シソ科 (4月-6月)



●オドリコソウ シソ科 (5月)



●カワラナデシコ ヌズ科 (9月)



●キリン草 アヤメ科 (6月)



●ツクシ ツクシ科 (6月-10月)



●クササテマ オウゴン



●ヘラオボロ オオバコ科 (6月-7月)



●ネムノキ ツクシ科 (6月-7月)



●サフランソウ コリウシ科 (6月-7月)

※ () は、花又は実の時期

花の季節

高水敷は、春から夏にかけて色とりどりの花で覆われます。春の訪れとともに、5月は一面のハルザキヤマガラシの黄色とカキドオシの紫色に、6月になると一帯はピンクのムシトリナデシコと白い花穂を下げるハリエンジュ(ニセアカシア)の甘い香りに包まれます。

7月から8月にかけては、コマツナギが薄紫がかったピンクの花穂を付けます。コマツナギは、生息域が限られるチョウ「ミヤマシジミ」の食草となっています。

また、高水敷は、このほかにもたくさんの昆虫の生息域になっています。柳の樹液に集まるクワガタやカブトムシなどのコウ虫類、マメ科やイネ科、スイバなどを食草とするチョウ類の活動の場です。



●ミヤマシジミ(上オス 下メス)



●ミヤマシジミの食草 コマツナギ マメ科

代表的な花と実



●白花の
ムシトリナデシコ



●ムシトリナデシコ ナデシコ科(6月)



●カワラナデシコ ナデシコ科(7月~8月)



●カワラハハコ キク科(9月)



●アキグミ グミ科(実10月)



●ナワシロイチゴ バラ科(実7月)



●ハルザキヤマガラシ
アブラナ科(5月)

※()は、花又は実の時期

信濃川高水敷の概要



十日町市を南北に縦断して流れる大河「信濃川」は、新潟平野を目前にしてやや急な流れの左右に高水敷（洪水時には水没する区域）が広がっています。この高水敷には水辺や砂地や石原の河川敷特有の植物が生育しています。

このガイドは、十日町市博物館友の会植物研究グループが'97年から'99年に行った観察会で見られた信濃川の代表的な植物を紹介しています。

〔観察地〕

十日町橋下流約1kmの信濃川右岸に広がる高水敷は、ハリエンジュ、シロヤナギを主木とする林やアキグミの群落、シバ、ススキ、チガヤなどに覆われた草地、石や砂地で構成されています。



●ハリエンジュ マメ科(6月)

発行：水辺の楽校活用協議会

監修：樋熊清治

(信濃川河川環境保全モニター)

協力：十日町市博物館友の会
植物研究グループ

国土交通省北陸地方整備局

信濃川工事事務所